



iPadでこれからの学びをデザインする

イノベーションをリードする

目次

イントロダクション	03
チームを作る	04
キャパシティを広げる	07
コミュニティと連携する	09

教育委員会や学校でリーダーの役割を担うみなさんにとって、今は非常に大切な時期です。同時に、この時期は自治体や学校にポジティブな変化をもたらすきっかけのときでもあります。テクノロジーを活用し、学びのあり方を再考することで、生徒の意欲が引き出され、より創造的な学習体験を生み出すことができます。これからの学びを前へ進めるため、Appleは学校の管理職や教育委員会、教師、政府機関、企業、そして保護者のみなさんと取り組み続けます。今後、学びの形がどのようなものになるとしても、教師のみなさんと生徒たちにインスピレーションを与えられるようにテクノロジーをデザインし、構築するというAppleが40年以上取り組んできた活動は続いています。

ビジョン

どの学校でも、どの教育委員会でも、教育におけるビジョンを掲げることは大切です。ビジョンとは、「変化する世界の中で、子どもたちの課題を解決する能力を育む」、「生徒がグローバル社会の一員として活躍できる人物になれるようサポートする」などのように、学びにおける意義や目標を示す指針のことです。そして同時に重要となるのが、適切なテクノロジーを取り入れることで、既存のビジョンを再考し、より良いものへと進化させることです。管理職を中心とするチームで話し合い、自治体や学校でこれからの学びを実現するための新しいビジョンを明確にし、取り入れるべきテクノロジーについて考えてみましょう。

テクノロジーを活用して指導と学習のレベルをさらに高めることは重要な取り組みです。「iPadでこれからの学びをデザインする」では、教育の現場に現在求められている変化に対応し、各学校や教育委員会のビジョンの実現に向けてAppleとともにこれからの学びをデザインする上で重点的に取り組むべき主な領域を、右に示した要素に分けて紹介します。これらの要素は、Apple製品を学習コミュニティで広く活用しているリーダーたちと話し合った結果を基に作成されたものです。みなさんの自治体や学校でも、すでに手応えを感じている領域もあれば、これから注力し、取り組む必要のある領域もあることでしょう。教育委員会の担当者や学校の管理職チームなど、教育の進むべき方向性を示すリーダーたちでこれまでの経過を振り返る際に、ぜひこれらのガイドを活用してください。



チームを作る >

さまざまな側面で計画をサポートし、地域コミュニティと連携を続けながら、円滑に取り組みを進められるように、複数の部門で構成されるチームを作ります。



キャパシティを広げる >

それぞれの人材の能力や使えるリソースを把握して、すべてのメンバーをサポートできるようにし、先を見越して学習環境におけるニーズに対応します。



コミュニティと連携する >

コミュニティの人々が、柔軟な学習環境において生徒たちを積極的にサポートするために果たせる役割を理解できるよう支援します。



学習と指導を再考する >

iPadがある学習環境に合わせて授業のあり方を再構築し、生徒たちの意欲を高め、新しい学びの達成を目指します。



テクノロジーを管理する >

iPadを中心としたテクノロジーを導入・管理し、教育委員会や学校のビジョンをサポートする学習環境を、家庭でも学校でも実現します。



評価して成長する >

進捗を評価して管理するための目標を設定するときは、常に教育のビジョンを念頭に置いてください。目標を達成するための新しい方法を探れる機会です。



イノベーションをリードする チームを作る

このセクションでは、さまざまな側面で計画をサポートし、地域コミュニティと連携しながら、取り組みをリードするチーム作りのアイデアを紹介します。

学習環境におけるイノベーションも、もともとは強い信念を持った1~2人の取り組みが始まりだったということは珍しくありません。ただし、そのような取り組みを持続させるには、責任を共有するチームが必要です。革新的な考えを持っていたり、影響力のある人物で構成されたチームを作ることで、計画を立て、取り組みを進め、インスピレーションを与え、コミュニティとの連携を維持することができます。

管理職を中心とするメンバーで構成する推進チームは、今の世界に求められるニーズに対応し、未来を築いていくために、教育委員会や学校の運営方法を変える役割を担います。状況が変わる中、新しい優先事項に対応するためにチーム内で専門性を高める必要があるかもしれません。

チームを作る

チームを作るときには、対応が必要な新しい領域の専門知識や経験を持つメンバーを検討しましょう。大きなテーマについて考えられる赴任したばかりのメンバーから、みなさんの学校について知り尽くしている古参メンバーまで、幅広いチーム構成にしましょう。共有する目的を確認し、期待されることやビジョン、目標についての認識を一致させることで、チームに一体感が生まれ、共同作業がスムーズに進み、チームの成長にもつながります。

教育者以外の代表者

養護教諭などの職員も重要な役割を担います。また、教育委員会や地域コミュニティのリーダー、高等教育機関の教授や有識者、革新的な経営者からも価値のある情報や意見が得られ、つながりやリソースをさらに広げられることもあります。生徒たちからもアイデアを集め、決定事項についての意見を聞き、生徒のコミュニティ内でも周知してもらうことを検討しましょう。

成長できるチーム

チームを編成した後も、必要に応じて新しい専門知識を持つメンバーが参加できるように準備しておきます。

目標と活動内容を定める

このチームが短期および長期的に取り組む内容の目標を定めます。進捗を評価する方法について話し合い、目標達成に向けたマイルストーンを設定します。

ビジョン

決定する内容や実施するアクションは、必ず教育委員会や学校のビジョンとミッションを基に判断します。それぞれのビジョンや文化は変わりませんが、それらの実現方法は変えることができます。思いもよらなかったきっかけが生まれたことで、そのビジョンの実現に近づくこともあります。

目標

短期および長期の目標を定め、進捗を評価する方法を考えます。

優先順位をつける

コミュニティから現在求められていることの中で、最も重要なことや、対応を後回しにできることを判断します。新しい優先事項について話し合うプロセスを作り、それらを取り組みに含める方法を考えます。

コラボレーションの方法を決める

共通の目的や目標、および協力して取り組む方法について確認します。

プロセス

事前にコラボレーション方法について意見をまとめ、フィードバックプロセスや、各領域で最終判断を下す人、作業を実行に移す方法を決めます。

ミーティングの開催頻度、取り組むべき作業、問題解決のために協力する際の手段も決めておきましょう。

プラットフォーム

共同作業やコミュニケーションに利用するプラットフォームを選び、その使い方を決めます。プロジェクト管理にNumbersの共有スプレッドシートを使えば、iPad、Mac、iPhoneからアクセスできるほか、Windowsパソコンでもウェブリンクを使ってアクセスできるので、1か所で管理できるようになります。PDFやウェブリンク、画像、ビデオ、スケッチなどをメモアプリケーションにまとめて記録して、メモやメモフォルダをほかのメンバーに共有することもできます。

つながる

コミュニケーション方法を確立します。グループFaceTime通話を使えば、最大32人のメンバーが顔を見ながら話すことができます。グループチャットの上部をタップすると、そこからすぐグループFaceTime通話を開始して、ミーティングを始めたり指示を伝えたりすることができます。

*管理対象Apple IDを使用している場合は、FaceTimeとiMessageが無効になっていますが、Apple School Managerを使って有効にすることができます。

担当チームを作る

コアチームを作ってメンバーを増やした後は、オリエンテーション、課外活動、新学期に向けた計画、PTA会議や保護者との面談など、特定の領域を担当する専門チームを作りましょう。各チームには、それぞれの目標と期待されることを明確に伝えてください。

DRI

DRI(Directly Responsible Individual)とは、特定の作業やプロジェクトを担当する責任者のことです。各プロジェクトの推進役となり、完了まで責任を持って担当し、最終的な判断を下すDRIを指名してください。

報告

各チームの進捗や決定事項を定期的に報告できるようなスケジュールを作りましょう。報告ミーティング専用の共有iCloudカレンダーを作ったり、[リマインダーアプリケーション](#)で共有リストを作り、通知を設定してメンバー全員の作業の進捗を管理してもよいでしょう。

まずはここから始めてみましょう：教育委員会向け

自治体の目指す教育や学校におけるイノベーションのために、まずはビジョンを明確にしましょう。その実現のために必要な幅広い人材が揃っているか、それぞれの役割は適切かを確認しながら、責任を共有するチームを作ります。必要に応じて、外部との連携も検討しましょう。

まずはここから始めてみましょう：学校のリーダー向け

新しい学びを実現するために必要な幅広いメンバーで構成されたチームを作りましょう。それぞれの役割が適切かを確認しながら、保護者やPTAなど、専門的な知識を持つ外部の人材との連携について検討し、必要に応じて、教育委員会に協力を求めましょう。



イノベーションをリードする キャパシティを広げる

このセクションでは、それぞれのメンバーの能力や利用できるリソースを把握し、iPadがある学習環境をサポートできるように見通しを立て、一人ひとりのニーズに対応します。

組織を大きく変えることで、現在の対応能力や成長が必要な領域が見えてきます。その変化を持続可能なものにするため、リーダーは教職員の専門性向上に重点的に取り組む必要があります。新たに生まれたニーズに対応するための教職員の経験や専門知識、そして利用できるリソースを改めて評価することで、チームの能力を高め、役割分担を見直すことができます。

リーダーが積極的に専門性の向上に取り組んでいると、教師たちは変革に取り組む準備ができていると感じるようになります。

チームメンバー

教職員全員を1つのチームとして考え、新しい形の学びを支えるために役割を見直したり調整したりしましょう。必要なことと、現在のメンバーでそのようなニーズにどのように対応できるかを評価した後で、メンバーを追加したりサポートを求める必要があるかどうかを判断します。地域コミュニティの人々、高等教育機関の教授や有識者に手伝ってもらえることもあるかもしれません。

チームを作る

教職員をグループに分け、現状でのニーズを整理して、現在のメンバーから適した人材を集めます。

役割分担を見直す

担当する業務が減った、または担当する仕事が変わった教職員を、サポートがさらに必要なほかの領域に割り当て直します。たとえば、一人ひとりの生徒に合わせてサポートできるように、生徒たちをフォローアップする教職員の人数を増やすなどが考えられます。

トレーニングする

新しいシステムを使いこなしたり、これまでとは異なる方法で指導するために特別な専門知識やトレーニングが必要な場合は、そのような領域で成長が見込める教職員を対象にしましょう。長期的には特別な役割を担ってもらえる可能性もあります。

採用する

組織や学校の外からもサポートしてもらいましょう。新しい教職員を採用したり、地域コミュニティのメンバーやコンサルタント、各分野のエキスパートにサポートを求めれば、負担の増えた業務や新たなニーズに対応できます。ITチームにサポートメンバーを追加したり、テクノロジーの専門家にサポートを依頼するなど、さまざまな方法を検討してください。

プロフェッショナルラーニング

新しいテクノロジーを活用することで、新しい機会が生まれますが、そのような環境では教職員のみなさんがスキルを向上していく必要があります。基礎的なスキルを身につけて、そうしたスキルを高めながら、自信を高めていけるようなプロフェッショナルラーニングの機会を用意しましょう。

パーソナルラーニングネットワーク

教師のみなさんによる勉強会や集まりなど、学校の内外のグループによって運営されているパーソナルラーニングネットワークを活用し、無理なくスキルを開発できるようにしましょう。グループでアイデアやベストプラクティスを共有し、それを管理職のみなさんにも提案できるようにしてください。Apple Storeでもスキルを学べる各種セッションを開催しているので、ぜひご活用ください。

コーチ

教師のみなさんがコーチとなり、同僚の教師がスキルを高められるようサポートできる環境を作りましょう。あらゆる生徒を指導できるようにするためのツールやリソースを評価し、教育プログラムや特別なサポートなど、iPadを使って生徒一人ひとりのニーズを満たす有意義な授業を行うために必要なトレーニングを教師のみなさんが受けられるようにしてください。Appleプロフェッショナルラーニング基礎インストラクターがパートナーとしてみなさんをお手伝いすることもできます。

教師のみなさんが成長できる領域に集中的に取り組み、自信を持って教育に活かせるようにし、また学校でテクノロジーの統合を深め、Appleのエコシステムを指導と学びに最大限に活用できるようにサポートします。

オンライントレーニング

優れたプロフェッショナルラーニングのリソースもオンラインに用意しています。

[Apple Education Learning Series](#)では、教師のみなさんはオンデマンドビデオを視聴したり、ライブ配信のバーチャルカンファレンスに参加しながら、学習と指導に関するベストプラクティスを学べます。[Apple Teacherプログラム](#)には、自分のペースで学習を進められるリソースが豊富に揃っているので、Apple製品に関するスキルを身につけ、自信を持って授業に活用できるようになります。iPad、Mac、およびApple製のアプリケーションの基本的なスキルをしっかりと身につけるため、まずはApple Teacherのバッジを獲得することを教師のみなさんの目標に設定し、インセンティブを別途用意しましょう。

テクノロジートレーナー

自社が制作したプラットフォームでトレーニングを提供している、テクノロジープロバイダやコンテンツプロバイダを探しましょう。テクノロジートレーナーの専用サポートには、Appleプロフェッショナルラーニング基礎インストラクターからのトレーニングセッションを含めることもできます。

まずはここから始めてみましょう：教育委員会向け

利用できるリソースを改めて評価し、役割分担を見直しましょう。外部から各分野のエキスパートを採用したり、チームと個人の能力を高めるためのトレーニングを実施することを検討してください。目的に応じて、ほかの自治体との交流や視察も検討しましょう。

まずはここから始めてみましょう：学校のリーダー向け

教師のみなさんに求められる専門性の向上に、重点的に取り組みましょう。身につけてもらう必要のあるスキルを見極め、適切なリソースを紹介したり、トレーニングやプロフェッショナルラーニングを実施することも検討してください。



イノベーションをリードする

コミュニティと連携する

このセクションでは、柔軟な学習環境において生徒たちを積極的にサポートするために、地域コミュニティのメンバーと連携し、取り組みを進めていけるよう支援します。

変化が求められる今日、保護者を含むコミュニティとの連携がみなさんの取り組みにおいて非常に大切になります。管理職を中心とするチームが成功を収めているケースでは、明確で戦略的なコミュニケーションを通じてビジョンに関する認識をすべての関係者としっかり共有し、浸透させることで、ビジョンを実践しています。定期的にコミュニティに情報を発信して参加を促し、コミュニティからもフィードバックをもらえる機会を作りましょう。

コミュニケーションを大切にす

新しい形の学びと指導を確立し、変化に対応するには、教職員や生徒たち、保護者のみなさんとのコミュニケーションが重要です。目的を持って伝える内容を考え、受け手には十分な情報が共有され、参加できていると感じてもらえるようにしましょう。管理職を中心とするチームには必ず広報の担当者を入れます。担当者がいない場合は、みなさんの学校や教育委員会内でその役割を割り当てることを検討してください。生徒たちや保護者と特に強いつながりを持つ教職員を探しましょう。広報の担当者が責任を負うのは情報伝達の調整で、すべての内容を作成するわけではありません。コミュニティとのやり取りでは、管理職を中心とするチームも重要な役割を担います。

コミュニケーションプラン

地域の人々とのコミュニケーションは、教育委員会や学校のビジョンを常に念頭に置き、計画や取り組みを進めながら行う必要があります。管理職を中心とするチームが学校のビジョンを示し、これからの学校をどのように作っていくのかという計画を伝えられるようサポートするため、Appleは[コミュニケーションキット](#)を用意しています。コミュニティのメンバーがオンラインで受け取っている情報は以前よりもはるかに増えている可能性があるため、適切な情報を簡潔に伝えることが大切です。

スケジュール

定期的に発信を行うようにすれば、コミュニティのメンバーも最新状況の連絡が入るタイミングを意識できるようになります。教育に携わるリーダーの多くが、コミュニケーションは足りないよりも多すぎる方がよいという認識を共有しています。

先を見越して伝える

関係者から挙がるであろう質問や懸念を特定し、先を見越して対応します。提供する情報には一貫性が必要ですが、情報を受け取る人によって伝え方を変えた方がよいこともあります。

コミュニケーションの方法

コミュニケーションに使うプラットフォームを選び、コミュニティに知らせましょう。さまざまなプラットフォームで定期的に最新状況や詳しい情報を伝えます。たとえば、週に1回メールを配信したり、毎日ソーシャルメディアに投稿したり、週のはじめに体験談を募ったりして、発信する内容も考えましょう。

現在のシステムを改善する

まずは、すでに使用しているコミュニケーション方法を見直し、改善して使ってみましょう。

適切な方法を選ぶ

さまざまなプラットフォームを使いましょう。やり取りを強化するため、伝えたい相手に最も効果があるコミュニケーション方法(対面での会合、ソーシャルメディア、バーチャルカンファレンス、プリント、メール、テキストメッセージ、ウェブ)を使ってください。

メッセージを作ってからカスタマイズする

軸となるメッセージをしっかりと作り込んでから、使用するプラットフォームや受け取る相手に応じてカスタマイズします。ClipsやiMovieを使ってコミュニティ向けのビデオを作成するなど、新しい伝え方を考えましょう。生徒たちにも協力を促し、このようなビデオを制作してもらうこともできます。

教師のコミュニケーションをサポートする

教師のみなさんが効果的にメッセージを伝えられるようにアドバイスしましょう。生徒や保護者のみなさんへの連絡に利用できるメールテンプレートを用意している学校もあります。教師のみなさんには、どこまで伝えてもよいか、そしてサポートが必要なときは誰に相談すればよいかを共有してください。Clips、iMovie、KeynoteといったApple製のアプリケーションを活用すれば、授業での教師の取り組みや生徒たちの学習状況をクリエイティブに伝えられるようになります。

行動の呼びかけ

メッセージを受け取ったことをきっかけに、取り組みに関与し始める人もいます。状況を定期的かつ明確に伝えるだけでなく、その中で具体的な行動を呼びかけましょう。取り組みに参加し、体験談を共有する方法も伝えるとよいでしょう。

成果を共有する

教師、生徒、保護者のみなさんから体験談を募り、それぞれの取り組みの成果を讃え、コミュニティとしての連帯感を高めましょう。大小を問わずさまざまな成果を見つけてモチベーションを高め、連帯意識を作り、全員の成果として共有してください。Apple製のクリエイティブツールを使ってみたり、ビデオ、音楽、写真やスケッチを使って楽しみながら体験談を共有する機会を作るとよいでしょう。

まずはここから始めてみましょう：教育委員会向け

明確なコミュニケーションを通じて、目指しているビジョンを地域コミュニティと共有することから始めましょう。チーム内で情報発信のためのプラットフォームやコンテンツ、頻度などを判断する広報担当者を決めてください。行政機関を巻き込んで、自治体全体として情報を発信していくことも重要となります。

まずはここから始めてみましょう：学校のリーダー向け

目指しているビジョンを地域コミュニティと共有するため、定期的に情報を発信してフィードバックを受ける機会を作りましょう。Appleが提供する[コミュニケーションキット](#)を活用すれば、そうしたやり取りの中でコミュニティとしての連帯感を生み出し、地域とともに取り組みを進めていくことができます。